「(仮称) 日野地域未来総合戦略（第２期日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略）骨子（案）」に関するパブリックコメントの結果概要

１．パブリックコメントの期間
令和８年（2026 年）５月 27 日～6 月 26 日　（公表日：５月 27 日）

２．資料の掲載・閲覧場所
(1)インターネット及び 市ホームページ
（2）企画経営課
（3）図書館・市政図書室（7 か所）
（4）七生支所・豊田駅連絡所

３．パブリックコメントの方法
（1）日野市地域共創プラットフォーム上での投稿
【URL】https://polipoli-gov.com/issues/xlkPQQILN83fISyxcrzw
（2）意見書様式の郵送・持参・ファックス又はＥメールによる送信

４．掲載資料
（1）第２期総合戦略骨子（案）
（2）第２期総合戦略概要版

５．意見の件数

69 件

類型	件数
日野市地域共創プラットフォーム	68
郵送	0
持参	0
ファックス	0
E メール	1
合計	69

６．意見類型別の件数

類型は日野市地域共創プラットフォームでの意見募集において、調査した「ご関心のある分野、またはご意見をお寄せになりたい分野を選択してください」への投稿者の回答を集計したものです。

類型	件数
いつまでも安心して住み続けられるまちに関わる分野 | 安全安心・危機管理／都市基盤・交通／行財政運営・ファシリティマネジメント／経営戦略・DX	12
自然と文化の魅力を誇れるまちに関わる分野 | 環境・GX／農業・観光／芸術文化・スポーツ	13
住み・学び・働き・活躍できるまちに関わる分野 | 教育・生涯学習／産業・雇用／住宅・居住環境	10
戦略全体・ロードマップ・MW ポートフォリオの考え方 について意見がある	1
誰一人取り残さない、ともに支え合えるまちに関わる分野 | 健康・医療／福祉・包摂／子ども・子育て／地域コミュニティ・共生・共創	17
特定の分野ではなく、複数の分野にまたがる 意見がある	16
合計	69

	コメント内容	市の回答
1	以下は, 生成 AI に議論させた内容です 【投稿コメント 1:相談・支援につながる道を作ってほしい】 第 2 期日野地域未来総合戦略が、市民・企業・行政の共通の作戦書として作られていることに賛成します。ただし、市民の困りごとは、行政分野ごとに分かれて起きるわけではありません。 高齢者の外出困難は、福祉、健康、交通、地域コミュニティ、DX が重なった問題です。子育ての不安は、子ども・子育て、教育、雇用、居場所、相談支援が重なった問題です。災害時の避難不安も、防災だけでなく、福祉、医療、交通、地域のつながりの問題です。 そこで、14 分野ごとの KGI・KSF・KPI に加えて、「生活経路 KPI」を作ってほしいです。具体的には、次の数値を毎年公表してほしいです。 ・相談を受けてから、必要な窓口や支援につながるまでの日数 ・高齢者、子育て家庭、障害のある人、外国人市民などが、相談先を知っている割合 ・地区ごとの「相談・居場所・移動・避難」の 4 機能の有無 ・災害時に支援が必要な人の避難計画作成率と訓練参加率 ・オンライン手続きが苦手な人への伴走支援件数 数値目標の例として、2028 年度までに「相談から 7 日以内に必要な支援へつながる割合 80%」、2030 年度までに 90%を目指す、という形が考えられます。正確な目標値は市の実データで調整してよいと思います。	分野を超えて複雑化する生活課題に対し、相談から必要な支援へ迅速につなぐ仕組みづくりは重要であると認識しております。 本戦略では、各分野が縦割りで対応するのではなく、関連する指標間のつながりや目標にいたる道筋を市民の皆様に分かりやすく明示するため、戦略的ロードマップや分野間の連動について言及いたしました。 ご提案の分野横断的な「生活経路指標」や共通の連携ツールの導入について、個別事業の実施そのものを本戦略で直接規定することは困難ですが、既存の相談支援体制や個別計画と整合を図り、実効性のある進行管理の手法として研究してまいります。

	また、市役所、地域包括支援センター、学校、図書館、公民館、地区センター、薬局、医療機関、子ども包括支援センターなどで、共通の「つなぎ票」を使えるようにしてほしいです。 市民がどこに相談しても、「それは担当外です」で終わらず、必要な支援へつながる仕組みが必要です。	
2	以下は, 生成 AI に議論させた内容です 【投稿コメント 2：交通・公共施設・DX を、生活を支える基盤として整えてほしい】 総合戦略では、交通、公共施設、DX を単独分野として見るだけでなく、市民が支援や活動にたどり着くための基盤として扱ってほしいです。 まず、交通空白は「バスが少ない」という問題だけではありません。通院できるか、買い物に行けるか、子どもが学びや遊びの場に行けるか、高齢者が居場所に行けるか、災害時に避難できるかという生活全体の問題です。そのため、交通の KPI には、バス本数だけでなく、次のような指標を入れてほしいです。 ・交通不便地域から、病院、駅、公共施設、買い物先に行ける割合 ・高齢者や障害のある人が、週 1 回以上外出できる割合・デマンド交通、乗合タクシー、公共ライドシェア、買い物支援などの利用者満足度・交通支援によって、通院・買い物・地域活動に行けた件数 次に、公共施設は「建物」ではなく「機能」で見てほしいです。施設を統廃合する場合でも、相談、居場所、防災、学習、文化、子育て、高齢者見守り、デジタル支援の機能が地域から消えないようにしてほしいです。数値目標の例として、2030 年度までに、各生活圏で「相談できる場所」「集	交通・公共施設・DX を生活を支える不可欠な基盤と捉える視点は極めて重要です。 本戦略では、デジタルの利便性を向上させる一方で、対面支援や地域拠点の維持など、誰もが取り残されない仕組みとの両立を図ります。 公共施設の再編や交通網の整備にあたっては、個別計画との整合性を担保しつつ、単なる効率化にとどまらない地域の複合的な機能維持に努めます。 ご提案の複合的な指標については、個別の実施計画や「日野市 DX 推進計画」等において、市民の皆様の利用実態や満足度を踏まえながら実効性のある管理方法を検討してまいります。

	まれる場所」「避難できる場所」「デジタル支援を受けられる場所」の 4 機能を少なくとも 1 か所確保する、という形が考えられます。 DX についても、オンライン完結率だけを目標にしないでください。デジタルが使える人には便利に、使えない人には対面、電話、地域窓口、伴走支援を残すべきです。DX の KPI には、次のような項目を入れてほしいです。 ・主要手続きのオンライン完結率 ・窓口待ち時間の短縮率 ・書類を書かずに済む手続き数 ・デジタルが苦手な人への支援件数 ・職員の事務作業時間の削減量交通、施設、DX は、単なる効率化ではなく、市民が暮らし続けるための道具として設計してほしいです。	
3	以下は, 生成 AI に議論させた内容です 【投稿コメント 3:低優先分野にも最低維持ラインを置き、市民意見を更新履歴として残してほしい】 総合戦略では、「選択と集中」が必要だと思います。ただし、優先度が低く見える分野を、そのまま不要と扱わないでほしいです。 農業、観光、芸術文化・スポーツ、多文化共生などは、短期的な行政効率だけでは価値を測りにくい分野です。しかし、これらは日野らしさ、子どもの体験、地域への誇り、孤立防止、世代間交流、外国人市民の安心につながります。 そのため、各分野に「最低維持ライン」を置いてほしいです。例として、次のような基準が考えられます。	優先順位が低いとされる分野であっても、本市固有の価値や多面的な機能を有していると認識しております。 本戦略では、これらの分野を単独で維持するのではなく、教育や福祉といった重点分野と有機的に連携させた面的行政運営の中で、その役割と地域資源を最大限に生かしていくことを志向しています。 また、ご指摘の市民意見の可視化や共創実験の仕組みづくりは、透明性と実効性を高めるうえで重要な視点です。いただいた多様なご意見については、行政としての公益性や実施能力を勘案しながら整理し、今後の適切な意思決定や施策への反映に努めてまいります。

	・子どもが年 1 回以上、農業、自然、文化、歴史に触れる機会を持てること ・各生活圏で、文化・スポーツ・交流活動に参加できる機会を残すこと ・災害、医療、子育てに関する情報を、やさしい日本語や多言語でも届けること ・農地、湧水、用水、緑地を、環境だけでなく教育、防災、交流の資源として活用すること・芸術文化・スポーツを、孤立防止や居場所づくりにもつなげること また、地域共創プラットフォームやパブコメで出た意見について、反映したかどうかを更新履歴として公開してほしいです。分類は、たとえば次のようにしてほしいです。 ・反映する ・一部反映する ・既存施策で対応する ・今後検討する ・他の計画に引き継ぐ ・現時点では難しい ・未解決の意見として残す 特に、すぐ数値化できない不安や違和感も消さないでください。「相談先が分からない」「居場所が遠い」「農地や文化がなくなるのが不安」「デジタル手続きが怖い」といった声は、数値にしにくくても大切です。数値目標の例として、パブコメ意見の 100%について、どの分野、どの KGI・KSF・KPI に関係するか、またはなぜ関係づけが難しいかを公表してほしいです。	

	さらに、毎年 10 件程度でよいので、市民提案を小さく試す「共創実験枠」を作ってほしいです。空き家を使った居場所、農と子育ての連携、高齢者の外出支援、多文化防災、子どもの地域体験、デジタル支援ボランティアなどを、小さく試して効果を測る仕組みがあると、市民参加が実際の変化につながります。	
4	以下は, 生成 AI に議論させた内容です 【投稿コメント 4:実行できる計画にするため、担当・人員・見直しルールを明確にしてほしい】 総合戦略では、KGI、KSF、KPI を使って進行管理する方針が示されています。この考え方には賛成です。ただし、目標を置くだけでは実行できません。 日野市では、今後、職員数の減少や財政の制約がさらに強まるとされています。そのため、各 KPI について「誰が、どの体制で、どれくらいの負担で実行するのか」を見えるようにしてほしいです。 具体的には、重点施策ごとに次の項目を公開してほしいです。 ・担当課・協力する部署・市民、企業、団体が協力できる部分 ・必要な人員や作業量の見込み・既存業務を減らせる部分 ・年度ごとの進捗確認時期 ・KPI が未達だった場合の見直し方法特に、KPI が未達だったときに、すぐ「廃止」や「努力不足」と判断しないでください。原因には、KPI が実態を測れていない、別の分野が詰まっている、市民に届いていない、人員が足りない、などもあります。目標値の例として、2030 年度までに、重点施策の 100%について、担当課、協力主体、見直し時期、未達時の	持続可能な執行体制の構築や、客観的データに基づく進行管理の重要性は十分認識しております。 市では、主要施策の担当課や主な予算規模を公表し、計画の透明性を確保しております。一方で、個々の事業単独で必要人員を事前に算定することや、一律の見直しルールを厳格に適用することは実務上困難であり、社会経済情勢や内部統制の状況を踏まえた柔軟な対応が不可欠です。 未達時の評価や改善プロセスについては、通常の事務事業評価等と適切に連携させ、実効性のある柔軟な軌道修正に努めてまいります。

	対応方法を公開してほしいです。また、KPI 未達の施策については、毎年度 100%を次のように分類してほしいです。 ・改善して続ける ・別の施策と統合する ・他分野と連携する ・市民や企業との共創実験に移す ・最低限だけ維持する ・一時停止する ・廃止する ・次年度に再検討する こうすることで、計画が作って終わりにならず、毎年直せる実行計画になると思います。	
5	以下は, 生成 AI に議論させた内容です 【投稿コメント 5:子ども・若者を、学校だけでなく地域全体で支えてほしい】 日野市の将来を考えるうえで、子ども・子育て、教育はとても重要だと思います。子どもが安心して育ち、学び、将来の夢を描けることは、人口減少や地域の担い手不足への対策にもつながります。ただし、子どもを支える責任を、家庭や学校だけに集中させるのは限界があります。地域、企業、大学、NPO、公共施設、図書館、公民館、スポーツ・文化団体なども含めて、子どもと若者を支える仕組みにしてほしいです。具体的には、次の取組を提案します。 ・子どもや若者が意見を出せる場を、毎年必ず作る	子どもや若者を地域全体で支え、その声を施策に反映させる視点は、中長期的な持続可能性を確保するうえで極めて重要です。 本戦略では、教育や福祉といった分野の枠を超え、地域の多様な主体が連携した面的行政運営の中で、子どもたちの安心できる居場所づくりや体験活動の機会創出を推進する方針です。 ご提案の意見反映状況の可視化や相談・活動場所の確保に関する指標については、個別事業の実施を直接担保するものではありませんが、本戦略が示す基本方針のもと、関係計画と整合を図りつつ実効性のある指標の設定や運用の見直しを検討してまいります。

	・小中学校区ごとに、子どもが安心して行ける居場所を確認する ・学校、地域、企業が連携した体験活動を増やす ・不登校、発達特性、貧困、外国につながる子どもなどに、早く支援が届く仕組みを作る ・子どもから出た意見が、どの施策に反映されたかを公開する数値目標の例として、2030 年度までに、すべての中学校区で「子ども・若者が相談できる場所」「放課後や休日に安心して過ごせる場所」「地域体験に参加できる機会」を確認できるようにしてほしいです。 また、子ども・若者から出た意見について、毎年度、反映、一部反映、今後検討、反映困難の区分を公表してほしいです。 目標として、子ども・若者の意見の 100%に対して、市の考え方を返す仕組みが必要だと思います。子ども・若者を支えることは、福祉だけでも教育だけでもなく、日野市全体の将来を支える投資だと思います。	
6	以下は, 生成 AI に議論させた内容です 【投稿コメント 6：産業・雇用を、地域の困りごとを解決する仕事につなげてほしい】 日野市では、大企業の工場移転や産業の縮小、働く世代の減少が課題になっています。そのため、産業・雇用は、単に企業を増やすだけではなく、地域の困りごとを解決する仕事を増やす方向で考えてほしいです。 たとえば、日野市には次のような困りごとがあります。	産業・雇用を地域課題の解決や多様な主体の共創につなげる視点は極めて重要であると認識しております。 本戦略のほか、日野市イノベーションビジョンにおいても、限られた公的資源のなかで持続可能な地域経営を行うため、民間事業者や NPO、市民の皆様が主体となる「地域課題解決型のビジネス・活動」の創出は重要な観点であると認識しております。 ご提案の個別指標等については、本戦略が示す「共創」の理念のもと、適切に検討してまいります。

	・高齢者の外出や買い物支援 ・子育て家庭の孤立 ・交通空白地域の移動支援 ・空き家や空き店舗の活用 ・農地や自然の保全 ・デジタルが苦手な人への支援 ・災害時の地域支援 ・障害のある人や高齢者の働く場づくり これらは、行政だけで抱えると負担が大きくなります。一方で、事業者、NPO、地域団体、学生、シニア人材が関われば、新しい仕事や活動になります。 そこで、産業・雇用分野では、「地域課題解決型の仕事」を増やす KPI を置いてほしいです。 具体的な数値目標の例として、次のようなものが考えられます。 ・地域課題を解決する新規事業や活動を、毎年度 10 件以上生み出す ・空き家、空き店舗、公共施設の一部を活用した地域活動・小規模事業を、2030 年度までに各生活圏で 1 件以上作る ・高齢者、障害のある人、子育て中の人が短時間でも働ける仕事や活動の登録件数を毎年増やす ・市民、事業者、行政が地域課題を話し合うマッチングの場を、年 2 回以上開く	

	また、企業誘致をする場合は、税収だけでなく、地域への貢献も確認してほしいです。 たとえば、地域雇用を増やす、子どもの学びに協力する、防災に協力する、環境に配慮する、市民との対話の場を持つ、という条件を見てほしいです。 産業・雇用を、単なる経済政策ではなく、日野市の生活課題を解決する力として育ててほしいです。	
7	方向性はすごく共感できます。共創でビジネスをつくっていく拠点があるのはいいなと思います。ただ正直なところ、豊田の PlanT、あまり盛り上がっているように見えないんですよね…。平日の夕方に通りかかっても人がまばらで、ちょっと寂しい感じがします。せっかくの場所なので、もっと本気で活用を進めてほしいです。新しい拠点や制度を増やすことも大事だと思いますが、まずは今ある場所がちゃんと使われて、人が集まって活気が出ている状態を目指してもらえたらと思います。	豊田の「PlanT」に対する実感を伴うご意見をいただき、ありがとうございます。担当課にもお伝えさせていただきます。 既存の産業連携拠点を十分に機能させ、活気ある状態にすることは極めて重要な課題です。 本戦略においては、新たな拠点の整備を優先するのではなく、まずは「PlanT」をはじめとする既存資産の有効活用と縮充による機能強化を進めていく重要性を提示しております。 なお、今後の新たな拠点整備や施設のあり方については、公共施設総合管理計画との整合をとりながら、財政負担や利用実態を十分に見極めたうえで、実効性のある適正な管理・運営に努めます。
8	生涯学習の部分なんですが、地域課題の解決に活かす、という方向だけで語られているのが少し気になりました。 もちろん学びを地域に還元していくのは素敵なことだと思います。でも生涯学習って、本来はもっと個人の気持ちを尊重するものでもあるはず	生涯学習の本来の目的である、個人の自己実現やその人らしさを伸ばす姿勢を重視すべきというご指摘は、大変重要な視点であると考えます。 生涯学習は、地域への貢献の有無に関わらず、一人ひとりの自発的な学

	です。地域への貢献につながるかどうかに関わらず、一人ひとりが自分のために学ぶこと、その人らしさを伸ばすことを支援する姿勢も、同じくらい大事にしてほしいと思いました。	びや知的好奇心、自己の精神的豊かさを尊重し、支援するものであるべきです。 ご意見を踏まえ、本戦略においては、個人の学びのプロセスそのものを尊重する視点を明確に位置づけつつ、その学びが結果として地域社会の豊かさにもつながっていくという、双方のバランスを十分に考慮した表現へ修正しました。
9	DX のところ、来庁不要で手続きできるとありますが、これってどのレベルまで目指すんでしょうか。全部の手続きをオンラインで完結させるつもりなのか、一部だけなのか、そこが書かれていないと目標として重いというか、ぼんやりしてしまう気がします。全部を一気にとなると相当大変だと思うので最終的にどこまでという線引きを明記してもらえると、現実味があって応援しやすいです。	DX 推進における対象手続きの線引きについて、現実的なロードマップを明示すべきというご意見をいただき、ありがとうございます。本市が目指す「来庁不要な手続き」は、すべての行政手続きを一律かつ同時にオンライン化するものではありません。手続きの重要性や市民の皆様の利用頻度などを考慮し、優先順位を整理したうえで、個別計画である「日野市 DX 推進計画」に基づき段階的にオンライン化を進めてまいります。進捗スケジュールや具体的な対象範囲を明確に示し、実効性と現実味のある目標管理を行ってまいります。
10	特に安全安心・危機管理についてですが、、 KGI と KSF のつながりが、いまひとつ読み取りづらいと感じました。特に KSF に書かれているものが具体的にどんな取組によって実現されるのかが見えにくいです。例えば、安全・安心に暮らせる地域生活環境の確保という状態をもってなんで犯罪の減少につながるのか、その状態はどういった状況をもってその状態となっているのかを明示した方がいいと思います。そうすれば目標までの道筋が市民にも理解しやすくなると思います。	安全安心・危機管理分野における目標値（KGI）と重要要因（KSF）の因果関係について、分かりやすい道筋を示すべきというご指摘を頂き、ありがとうございます。 ご意見を踏まえ、市民の皆様が「地域生活環境の確保」といった状態を具体的にイメージできるよう、防犯灯の整備や地域パトロールの活性化など、KSF を構成する具体的な取組内容を明示いたしました。さらに、これらの取組が犯罪減少などの最終目標（KGI）へとどのようにつながるのか、本戦略の論理構成や表現を精査し、目標までの道筋をより分かりやすく修正しました。

11	自ら学び、課題を解決する力を育むといった目標が掲げられていますが、その前提として、学校が楽しいと感じられること、安心して通えることが大切だと思います。その上で、不登校の子どもや、特別な事情を抱える児童のことも踏まえた目標設定にしていただきたいです。意欲や参加を測る指標だけだと、そうした子どもたちが置き去りにされた見え方になりかねません。誰一人取り残さないという視点が、KGI・KSF にも反映されると、より日野市らしい目標になると感じました。	誰もが安心して通える教育環境を前提とすべきという、本市の教育理念に関わる貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。 本戦略は個別事業を直接担保するものではありませんが、ご指摘のとおり「誰一人取り残さない」視点は極めて重要です。本戦略においては、自発的な学びの推進を掲げる一方で、安心して学べる土台づくりとして、適応指導教室（わかば教室）に関する具体的な記述を評価指標（KPI）に盛り込んでおります。今後も目標や重要要因（KSF）の検討にあたり、多様な状況にある児童生徒に十分配慮してまいります。
12	市民が主体的に健康を守るという方向性には賛成です。ただ、そのためにこそ、市民に使われる基盤をしっかり整えることが重要だと思います。特に、医療費の適正化という観点で鍵を握るのは高齢者世代だと思いますが、データに基づく予防医療を進めるなら、その高齢者の方々がいかにデジタルの基盤に乗れるか、どう誘導していくかが最大のポイントではないでしょうか。 市民の意識向上だけを KSF に置くのではなく、高齢者へのデジタル普及をセットで進め、その浸透度(利用率など)も KGI・KSF の指標として設定すべきだと考えます。基盤が使われて初めて、予防医療のデータも活きてくるはずです。	予防医療を効果的に進めるため、高齢者のデジタル普及を不可欠な基盤と捉えるご指摘を頂きありがとうございます。しかしながら、高齢者全体のデジタル普及率自体を単一の指標として客観的に測定することは実務的に困難がございます。 本戦略においては、指標の直接的な設定は避けつつも、高齢者世代へのデジタル普及や具体的な活用支援については、個別計画である「日野市 DX 推進計画」等と強力に連携して実効性のある取組を進める方針です。 基盤の浸透と健康増進が相乗効果を生むよう、関連部署が連携して実効性を高めてまいります。
13	骨子案・概要版を拝読しました。「選択と集中」という考え方は、限られた資源の中で日野市が進む方向を示すものとして、とても納得感がありました。一方で、この点はもう少し説明を厚くした方がよいと感じました。優先順位をやや下げて位置づけられた分野について、不要という意味ではないことは、よく読めば確かに書かれています。ただ、ぱっと目を通した市民からすると切り捨てられるのではないかという印象を持ってしま	「選択と集中」における優先順位の設定が、対象分野の不要や切り捨てを意味するものではないことを、より明確に示すべきというご意見をいただき、ありがとうございます。ご指摘のとおり、優先順位が低いとされる分野についても、他重点分野と緊密に連携した面的行政運営の中で事業を構築し、地域の多様な主体との「共創」によって維持・活性化を図ることをコンセプトとしております。

	う恐れがあると思いました。せっかくの日野市らしい特徴的な視点なので、こうした分野も土台として大切にする、形を変えて共創で支えるといった趣旨を、前文やロードマップの冒頭でもっと前面に出して強調していただけると、誤解なく伝わるのではないでしょうか。	市民の皆様に誤解なく本市の姿勢が伝わるよう、本戦略の前提となる第３章等の目立つ箇所において、これらの分野を地域経営の重要な土台として共創で支えていく趣旨をより分かりやすく明記いたしました。
14	町を歩くと 農地が減ってきているのが 気になります。 若い人が就農できる環境づくり オーガニック野菜栽培やブランド化に 力を入れて日野市の収入につながると ともに食糧自給率も上がると いいなと思います。	農地の保全や、若手就農支援、オーガニック農法によるブランド化など、持続可能な農業振興に関するご意見をいただき、ありがとうございます。 本戦略においては、すでに展開されている「農のあるまちづくり」や個別事業計画との整合を図りつつ、日野市の貴重な財産である農地を最大限に保全・活用する方針です。ご提案のブランド化や食糧自給率向上、若者の就農環境づくり等については、農業単独の施策にとどめず、教育や観光、健康等の重点分野と連携した面的行政運営のなかで、地域事業者等との共創により実効性のある取組を進めていくことが求められると考えております。
15	回復期病院など中核の病院を誘致して貰えると安心して生活していけると思います。	中核的な医療機能の整備など、安心できる医療体制の確保に関する貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。 回復期病床をはじめとする医療提供体制のあり方については、東京都が策定する地域医療構想や近隣自治体の状況、医療ニーズの動向を踏まえた広域的な連携・調整が必要です。本市における医療資源の確保や誘致等については、本戦略における施策の優先順位（MW ポートフォリオ）に基づき、市立病院の経営基盤強化や他施策とのバランス、財政規律を注視しながら、中長期的な持続可能性を重視して総合的に検討してまいります。

16	子育て世代に優しい街になってほしいです。 習い事や塾など通ったり多くの方が費用を気にせず通える街になってスポーツ・教育で羽ばたける人材育成に取り組んで貰えたらと思います。	子育て世帯の負担軽減や、誰もがスポーツ・教育の機会を得られる環境づくりに関するご意見をいただき、ありがとうございます。教育機会の確保や人材育成は重要な課題であると認識しております。 一方で、個別の補助や経済的支援については、戦略上の位置づけ（MWポートフォリオ）に基づき、他施策とのバランスや財政規律を考慮しながら総合的に検討する必要があります。 本戦略では、一律の公費負担のみに頼るのではなく、学校、地域、民間事業者等の多様な主体と連携した仕組みづくりを通じて、持続可能な子育て・教育環境の実現を目指してまいります。
17	いつまでも住み続けられて活躍したいと思います。	いつまでも住み続け活躍したいという、心強いご意見をいただきました。 本戦略では、目指すべき社会像に「自然と人が響き合い、健やかな暮らなしを未来につなぐまち」を掲げ、市民の皆様が年齢に関わらず自分らしく輝き続けられる環境づくりを重要な課題と位置づけています。健康維持や生涯学習といった個人の自己実現を後押しするだけでなく、福祉、交通、DX などの生活基盤を一体的に確保し、地域の多様な主体と「共創」しながら、誰もが生きがいを持ち、安心して暮らし続けられる持続可能な地域経営に努めてまいります。
18	原点回帰！ かつての日野の田園風景を取り戻す、風通しの良い暮らしと産業を。 地球温暖化につながる、ソーラーパネルの助成を取りやめ、コンクリートから人と農業を大切にする街にしていきたいです。 しがらみから自由になる政治に期待しております。	日野の誇るべき田園風景や農地、豊かな自然環境を重視すべきというご意見をいただき、ありがとうございます。本戦略においては、都市整備を単なる効率性や利便性だけで進めるのではなく、豊かな水路や緑地を保全・活用し、環境に配慮したまちづくりを進める方針です。ソーラーパネルをはじめとする温暖化対策等への各種助成については、国や都の動向、地球環境保全への寄与度を客観的に評価しつつ、本戦略が示す優

		先順位（MW ポートフォリオ）や限られた財政資源、他施策とのバランスを鑑みながら、中長期的な公益性に基づいて適切に検討・判断してまいります。
19	子どもが不登校になり、日野市が運営するフリースクール、わかば教室に通っています。わかば教室の先生は、子どもたちが精神的に緊急性の高いケースもある中で、一人一人丁寧に接し、居場所作りをしてくれています。家の子どもも、わかば教室に通うようになり、少しずつ元気になりました。登校へのサポートもして下さり、わかば教室の先生には頭が上がりません。民間ではなく、日野市がこの居場所を用意して下さること、とても感謝しております。日野市が子ども大切にしていると感じ、日野市に住んでいて良かったと考えています。今後もわかば教室の運営を続けて頂きたいですし、可能であれば少し予算を増やして頂けると嬉しいです。沢山の子どもの命を救っている場所だと思います。	わかば教室がお子様の大切な居場所となり、快復の一歩を支えられたという体験談をお寄せいただき、ありがとうございます。本市では、誰もが安心して学べる教育環境の確保を極めて重要視しており、本戦略の評価指標（KPI）においても、わかば教室に関する具体的な記述を盛り込むなど、支援体制の維持・充実を図ってまいります。予算配分や体制強化をはじめとする個別事業の具体的な運用につきましては、限られた財政資源とのバランスを勘案しつつ、子どもたちの命や安全を守る持続可能な教育支援体制の構築に向けて適切に努めてまいります。
20	市民の声を届ける機会を作っていただき感謝します ●日野市が推進する『性の多様性教育』ですが、これは女性・女児の安全と時に衝突します。言葉の美しさだけでない面も、そろそろ検討して　性的少数者の方と多数派の真の共生を目指していただきたいです。 ●データセンターの件ですが、周囲の環境への配慮(特に排熱)・有事の際に他国からの標的になりうる事・本当に雇用が増えて日野市の活性化に繋がるのか？丁寧で納得のいく説明・市民の生活に配慮した計画を求めます。 ●インターネット上で、乳幼児連れのお母さんへのオンラインハラスメントが苛烈になってきています。日野市においては親子連れに対するヘイトは許されないと早急にメッセージを出すべきです。	社会の多様性や技術変化に伴う重要な課題に対し、具体的なご意見をお寄せいただき感謝申し上げます。各種施策の推進にあたっては、理念や特定の方向性のみを優先することなく、周囲の環境や女性・女児の安全、生活影響に十分配慮し、不安の解消に向けた丁寧な説明と客観的な検討に努めてまいります。また、インターネット上を含めた親子連れや特定個人へのハラスメント、差別的言動については、決して許されないものとして、市として毅然とした対応と適切な啓発・相談体制の整備を進め、市民の皆様の安心安全な暮らしを守る対応を徹底してまいります。

21	保育園の数を増やしてください	子育て世帯が安心して働き、暮らせる環境づくりに関する貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。保育基盤の整備については、これまでも待機児童の解消に向けて重点的に取り組んでまいりました。今後の保育ニーズへの対応や施設確保にあたっては、将来的な児童人口の推移を見据えつつ、本戦略における優先順位（MW ポートフォリオ）に基づき、他施策とのバランスや財政規律を鑑みながら総合的に検討します。単なる量的な拡充にとどまらず、保育の質の維持・向上も含め、持続可能な子育て支援体制の確保に努めてまいります。
22	子育てもわかります。未来を見れば確かに子供の増加が必要です。ですが、長く日野市に住み続けるなら当然高齢になってからの福祉は必要だと思います。今の日野市の福祉が近隣の自治体に比べると良い環境とは言えないと思います。もし、日野市で子供を育て生涯日野市に住み続けてもらいたいと本心で思うなら高福祉を早急に考えた方が良いと思います。	すべての世代が安心して生涯を送り、福祉が充実したまちに住み続けたいという切実なご意見をいただき、深く受け止めております。、高齢期における安心な生活環境の確保は欠かせない課題と認識しております。一方で、近隣自治体との比較や経済的支援等のさらなる拡充にあたっては、将来の財政見通しや施策の優先順位（MW ポートフォリオ）を鑑みた総合的な判断が必要です。一過性の給付にとどまらず、地域全体で支え合う仕組みを構築し、中長期的に持続可能な福祉体制の確保に努めてまいります。
23	高幡不動駅交番と駐車場からローソン辺りまで禁煙にして欲しいです。(出来たら駅に向かう南平バス停辺りまで)非喫煙者からすると吸いながら駅まで移動してる人がいるので臭くて辛すぎますしポイ捨てされてることあるからゴミない市トップを継続したいのであれば検討すべきかと思います。	駅周辺における受動喫煙や歩行喫煙、ポイ捨てに関するご意見をいただき、ありがとうございます。担当課にもお伝えさせていただきます。本市では、主要駅周辺を「歩きたばこ禁止・ポイ捨て防止推進地区」に指定する等、環境美化と健康被害防止に努めてまいりました。ご指摘のエリアにおける歩行中の喫煙や吸い殻の放置については、非喫煙者の皆様の健康や安全性に直結する重要な課題として認識しております。今後も利用実態や歩行者の動線を十分に調査・把握し、啓発看板の増設やパ

		トロールの強化など、地域の実情に応じた実効性のある適正な管理・マナー対策を検討してまいります。
24	超高齢化社会にキメ細やかな福祉・医療・交通・生活補助などの施策の実施が必要と考えます。	超高齢社会における多様な生活課題に対し、きめ細かな支援を一体的に提供する視点は大変重要です。 本戦略では、福祉や医療、交通といった各分野を縦割りで捉えるのではなく、生活基盤として有機的に連携させた面的行政運営を推進します。 一方で、限られた公的資源や人的制約のなかでサービスを持続させるためには、一律の公費負担や行政単独の対応には限界があります。地域住民やNPO、民間事業者等の多様な主体との「共創」を軸とした支援体制を構築し、財政規律を鑑みながら、誰もが安心して暮らし続けられる仕組みづくりに努めてまいります。
25	生活保護の受け入れを厳しくして欲しい。自費治療希望する方もいるようですし。子供3人を低所得で育てている我が家の方がよっぽど生活が厳しいです。あとは、何かと他の市よりも対応が遅いように感じています。要らない補助金制度は無くして、子育て世帯や本当に困っている人へ、お金が回ることを願います。不登校も増えていますが、フリースクールの支援はあっても、フリースクールへも行けず、仕事をセーブしながら、お昼代もかかり、大変な思いをしている家庭もあります。家庭での学習の遅れもあるので、通信教育の支援もあってもいいと思います。日野市は自然も多く、大好きな街なので、頑張ってもらいたいです。	子育て世帯の厳しい生活実感や、不登校のお子様を家庭で支えるご負担に関する切実なご意見をいただき、重く受け止めております。生活保護をはじめとする公的扶助や各種補助金については、制度の公正な運用を担保しつつ、本戦略が示す優先順位（MW ポートフォリオ）に基づき、真に必要な世帯へ適切に届くよう不断の見直しを進めます。また、事務の迅速化や組織運営の効率化に努めるとともに、不登校のお子様を抱えるご家庭への支援については、わかば教室などの居場所づくりに加え、ICT を活用した自宅学習支援など多様な選択肢を研究してまいります。
26	子育て世代だけではなく、高齢者、年金生活者にも目を向けてほしい。我々は、社会の邪魔者なのか？	これまでの社会や地域を築き、支えてこられた高齢者の皆様が、本市にとって大切な存在であることは言うまでもありません。本戦略における「自然と人が響き合い、健やかな暮らしを未来につなぐまち」という目指すべき社会像は、子どもからご高齢の方まで、すべての世代が安心し

		て生涯を送り、それぞれの持ち味を生かして活躍できる社会を目指すものです。限られた財政資源や人的制約のなかであっても、福祉、医療、交通などの生活基盤を一体的に確保し、地域の多様な主体と「共創」しながら、誰もが生きがいを持ち、安心して暮らし続けられる持続可能な地域経営に努めてまいります。
27	でも作りすぎても保育園運営できなくなりそう。その時、施設はどう運営するかが問題だと思います。実際、どこかの市では子どもの枠が余り過ぎているところもあるようで。	今後の少子化の進展を見据え、保育施設の持続可能な運営と余剰スペースの有効活用は極めて重要な課題であると認識しております。本市におきましては、今後の児童人口の推移を予測しつつ、新規整備にあたっては過剰投資とならないよう、柔軟な需給調整に努めます。将来的に定員に余裕が生じた場合には、施設の廃止や縮小を前提とするのではなく、一時預かり事業の拡充や、地域の子育て支援・世代間交流の拠点、さらには他分野と連携した福祉拠点等への多機能化など、地域の実情に応じた有効な転用方法を不断に検討し、持続可能な施設運営に努めてまいります。
28	災害や犯罪に巻き込まれないような市民教育推進。 ライフラインの整備。	安全安心なまちづくりの推進にあたり、市民の防災・防犯意識の向上と、強靭なインフラ整備は極めて重要な要素であると認識しております。 市民教育におきましては、自助・共助の精神を育むため、体験型防災訓練や SNS 等を活用したタイムリーな情報発信を進め、実践的な備えを促します。また、ライフラインの整備におきましては、公共施設総合管理計画に基づくインフラの計画的な耐震化・長寿命化を進めるとともに、災害時の重要路線となる道路網の整備や、避難所となる施設の防災機能強化を一体的に推進し、災害や犯罪に強い自立分散型の地域基盤の確立に努めてまいります。

29	空き地を太陽光発電のパネルなどで埋めないで欲しい。木々や花、ベンチ、子どもの遊び場確保、来るかも知れない食糧難のため農業を推進してほしい。農業体験できる市民のための講座形式の農業学校があればいいなと思います。	豊かな水や緑といった自然環境と農地は、本市の大切な地域資源であると認識しております。空き地等の活用においては、景観や自然環境に配慮した適正な管理に努めるとともに、子どもたちの遊び場や憩いの場の確保に向け、みどりの保全を計画的に進めます。また、都市農業の持続可能性を高めるため、体験農園の開設やをはじめ、市民が土に触れ、農業への理解を深める機会の創出に取り組んでおります。今後も地域の多様な主体と共創しながら、農とみどりが調和したまちづくりを推進してまいります。
30	特になし。	今回は特に新規のご質問（パブリックコメント意見要旨）はないとのこと、承知いたしました。ありがとうございます。
31	DX 推進もいいですが、日野市からの広報が LINE を使用していることに異論があります。 広告を消すことができない LINE を公的アービスが使用することに違和感を感じます。 また LINE デジタル回覧板を推進していますが、同様の理由で反対します。 民間のリソースを有効活用するのは理解できますが。	DX 推進と合わせた広報の適切な活用についてのご意見をいただき、ありがとうございます。ご指摘のとおり、DX の推進にあたっては、利便性の向上とともに、公的な情報発信や市民サービスのあり方について、市民の皆様が安心して利用できる手段を選択することが重要であると認識しております。本戦略では、デジタル化を進める一方で、誰もが情報を受け取れるよう、複数の情報伝達手段や対面による周知にも配慮し、個別計画において市民の利便性と公平性の両立を図ってまいります。
32	街路樹を一切無くして節税することを提案します。1, メンテナンスコスト低減。(業者と癒着しているのでは？)2, 歩道が広くなる。3, 交差点での見切りがよくなる。	街路樹のあり方に関するご提案をいただき、ありがとうございます。本戦略では、道路空間を単なる移動のための場としてではなく、歩行者の安全性や快適性、沿道環境との調和を考慮したまちづくりを進める方針です。街路樹の植栽や更新、管理のあり方については、財政負担や安全性、地域ごとの特性や利用実態を踏まえ、道路整備や緑化に関する個別計画等で総合的に検討してまいります。

33	子育て世帯優しい街にしてほしい。幼児の副食費など隣の立川市では無料だし、産後ケアも安い。他の自治体では出産費用の助成などもある。日野市はまだ手厚いとは言えないと思う。	子育て世帯への支援の充実についてのご意見をいただきました。安心して子どもを産み育てられる環境を整えることは重要であると認識しており、本戦略では、子ども・子育て支援を重点分野の一つとして位置づけ、保育や相談支援、産後ケアなどの取組を含め、関係機関と連携しながら持続可能な支援体制を充実いたします。ご提案の具体的な制度の拡充については、市の他施策とのバランスや財政規律を鑑み総合的に判断してまいります。
34	緑を増やして欲しいと思う 特に夏は日陰がないときついので木陰が無い歩道に植樹をするのはどうでしょうか。それと歩道にベンチを設置してもらいたい。交流の場にもなるでしょうし、散歩中公園以外にちょっとした休憩スペースがあるといいと思う。	緑の保全と歩行空間の快適性向上に関するご意見は、本市のまちづくりにとって重要な視点であると考えております。本戦略では、総合的な目指す社会像として「自然と人が響き合い、健やかな暮らしを未来につなげるまち」の実現に向け、環境配慮型のまちづくりを進めるとともに、誰もが憩える空間づくりや回遊性の向上につなげます。歩道への植樹やベンチの設置については、利用状況や維持管理の負担、安全性、地域の景観との調和を考慮しながら判断してまいります。
35	豊田駅近辺に雨天時にもみんなが楽しく運動や演劇等出来る市民施設が無い多摩平の公団跡地の空き地を市で取得して体育館や公会堂みたいな施設を作って若者からお年寄りまで簡単に参加出来る設備を作って欲しい	地域の交流や文化・スポーツ活動を支える施設の整備に関するご意見をいただきました。生活の質や地域のつながりを高めていくことに加え、将来的な人口減少や財政状況の硬直化を見据えることが必要です。本戦略では、公共施設を単なる建物としてではなく、地域の機能を支える拠点として捉え、既存施設の活用や再編も含めて、地域ニーズに応じた機能確保を図ります。新たな施設整備の必要性や用地の取得については、公共施設総合管理計画を踏まえ検討していくことに加え、地域の居場所・健康づくり事業を進めている団体との連携を進めてまいります。
36	今般ニュースになっている熊対策を市発進でもやっていき、安心して暮らせる環境作りを願っています。	熊対策を含む安全安心の確保に関するご意見は、市民生活の基盤に関わる課題であると認識しております。本戦略では、安全・安心に暮らせる

		地域生活環境の確保を重要な方向性の一つとして位置づけております。野生動物への対応を含む地域の安全対策については、周辺自治体や東京都とも連携を模索しつつ、市民の皆様が日々安心して暮らせるよう、情報発信と地域防犯の強化に努めてまいります。
37	日野に残っている農地、豊かな水路、その周辺に残る緑地をできるだけ残してほしい。道路優先の開発ではなく、緑と水路を大切にした豊かな環境をできるだけ残してほしい。特に西平山の区画整理は道路ありきではなく、残っている農地や緑に配慮してほしい。緑と水路という日野市の豊かな財産を残していってほしい。	農地、水路、緑地をできる限り残し、地域の財産として生かしていくべきとのご意見は、本市の特性を踏まえた重要な視点であると考えております。本戦略では、水と緑の豊かな環境を本市の大きな魅力と捉え、本市が目指すまちの社会像として「自然と人が響き合い、健やかな暮らしを未来につなげるまち」を掲げております。西平山区画整理事業計画においては、すでに「農のあるまちづくり」や水路・緑地の保全・活用が明文化されており、引き続き道路整備や区画整理については、生活利便性や安全性に加え、地域の自然環境や景観への配慮を行い、関連計画と整合を図りながら慎重に検討してまいります。
38	日野の道路に街路樹を増やして欲しいです。家の目の前に出来た新しくて大きな道路、1 本も木が生えていません。きっとメンテナンスコストが発生しないように設計されているのでしょう。歩いていると「ここは荒野。。？」という感覚になります。(対して、市役所の近くは街路樹がある。市役所周りですら木が足りていないと思いますが、、) 例えば、日野市長に日野市の真夏の道路を練り歩いて頂き、木陰の少なさを実感して頂き、必要性を感じ取って頂くような企画も良いように感じました。PR 企画としても注目を集める事が出来ると思います。「しっかりと町を歩いて、政策を考える市長。」良いと思いませんか？そんな風に活動出来ている政治家は今の時代にいるのでしょうか？	街路樹の整備による暑熱対策や歩行環境の向上に関するご意見は、気候変動への対応という観点からも重要であると受け止めております。本戦略では、環境に配慮したまちづくりを進めるとともに、道路空間の快適性や安全性を高める取組を推進してまいります。街路樹の配置や管理費用、維持管理のあり方については、将来的な負担や効果を踏まえ、道路整備や緑化施策の中で適切に判断してまいります。

	実際に町を歩かず、市の予算の数字と睨み合いをして町を設計しようとしても、心地の良い町にはならないと思っています。新たに就任されたのですから、良いタイミングです。ぜひ。	
39	行政を詳しく知らない市民は利便性やサービス維持に拘るのでしょうが、行政窓口受付の時間を 16 時に短縮することや、土曜日開庁を見直すなど検討して、時間外勤務削減を本気で取り組んでほしいです。	行政の運営において、職員の負担軽減や働き方の見直しの視点でのご意見をいただきました。持続可能な市政運営の実現のため、本戦略では、限られた人的資源を有効に活用しながら、業務の効率化や DX の推進により、行政サービスの質を維持・向上させる方針です。窓口時間や休日開庁のあり方については、市民サービスへの影響や業務体制、他自治体の状況等を踏まえながら、市民利便性の維持と適正な組織運営の両立が図られる方策を模索してまいります。
40	西平山の区間整理予定地に住んでいます。 今これだけ環境課題を抱える中、あれだけ結果的に(暮らし手に多大なる負担をかけながら)残った農地はただ道路を作るために移転させるだけでなく、どうせ遅れたんだから新たにこれからの時代に向けて検討し、活かすべきです。 倒木後、街路樹の枝は容赦なく切られ、緑陰のなくなった歩道、、、 水とみどりがこの街が未来に誇れる最大の魅力であり、財産であることを、真剣に考えて欲しいです。 下水道と都市ガスが来れば、道路はなくても生きていけます。 東京都は日野市の自然を守ってはくれません。 大切なものが何か、あらためて考えたいと畑を見ながら日々感じています。	水やみどりといった本市の自然資源を次世代に引き継ぐことについてのご意見をいただきました。これらの自然資源は、環境、景観、防災、教育など多面的な価値を持つものであると認識しております。本戦略では、減少を続ける都市農地の保全を進めてまいります。西平山区画整理事業計画においては、すでに「農のあるまちづくり」や水路・緑地の保全・活用を明文化しており、今後も事業進捗や地域の実情を踏まえつつ、農地や緑の保全・活用について関係機関と連携しながら取組を進めてまいります。

41	開店の情報など、簡単アクセスで、パット見で理解でき、探し回らずに知りたい情報が集められたサイトがあると良いですねぇ。日野に行きたくなるかどうかは、そういうサイトが検索でパッと辿り着けるかどうかは入口で、それでいて入れない、辿り着けない、というのだと、手前で終わってしまうと思います。こんな意見でも良いのでしょうか。では。	本市の情報発信に関するご意見は、市民や来訪者に必要な情報を分かりやすく届けるうえで重要な視点であると受け止めております。本戦略では、DX の推進により情報取得の利便性を高める一方で、誰もが必要な情報にたどり着けるよう、サポート体制を整えてまいります。今後の市の情報発信の入口の改善に向けては、市民ニーズや利用実態を踏まえ、個別施策の中で改善を図ってまいります。
42	保育園に入れなさすぎます	保育ニーズへの対応は、子育て世帯が安心して暮らし続けるための重要な課題であると認識しております。本戦略では、子ども・子育て分野を重点的に位置づけ、保育環境の整備や相談支援の充実を進める方針です。保育園の整備や定員確保については、将来の人口動向や地域ごとの需要を見据えながら、既存施設の活用も含めて、計画的かつ持続可能な方法を模索してまいります。
43	地域コミュニティってなんなのだろう？ 自治会がない？自治会があっても入会しない？PTA はいらない？子ども会はいらない？ 本当にいらないのでしょうか？ 役を押し付けあって、イヤイヤやらされて、いつの間にか… どんな小さな活動でもいいから、地域コミュニティをなくさないで、 次世代の子どもたちのために、素敵な地域つながりを残したい！	地域コミュニティの維持・再生についてのご意見をいただきました。地域コミュニティは住民同士の支え合いを保つうえで重要である一方、全国的に自治会の加入率の低下などが相次いでおり、負担感が先行して持続が難しくなっている現状は日野市においても例外ではありません。本戦略では、行政分野の一つとして「地域コミュニティ・共生・共創」を位置づけ、孤立化が進む現代社会において、多世代が緩やかにつながる環境整備に向け、多様な担い手が関わる地域づくりを推進してまいります。
44	男女共同参画です。私は小平市に住む女性のひきこもりです。都内で、ひきこもり女子会というものを、いろんな市区町で開催しています。日野市で開催してくれれば行きます。小平市はひきこもり女子会を開催したこ	男女共同参画やひきこもり支援に関するご意見をいただき、ありがとうございます。誰もが自分らしく生きられる地域づくりの観点から、男女共同参画の推進は重要であると受け止めております。本戦略では、日野地域未来ビジョンで掲げる多様な生き方や背景を尊重しつつ、安心して

	とがないのですが、開催できるようにがんばります。日野市も小平市もお互い、男女共同参画がんばりましょう。	相談できる支援体制づくりを進める方針です。女性のひきこもり支援や交流の場づくりについては、関係機関や近隣自治体とも連携しながら、実施可能な取組を検討してまいります。
45	自然に身近に触れることが出来るまち。 文化を気軽に体験出来るまち。 小さな子どもからお年寄りまで。	年代に関係なく自然や文化に身近に触れられる環境についてのご意見をいただきました。本戦略では、本市の自然や文化資源を生かし、世代を超えて学び・楽しめるまちづくりを進める方針です。文化体験や自然体験の機会については、学校、地域、民間団体等とも連携し、地域の魅力を生かした取組を個別施策の中で進めてまいります。
46	私は現在日野市の在住ではありませんが、かつて近隣の町田市に居住し、法政大学多摩校舎への通学などで日野市や多摩地域の豊かな自然・まちの魅力に深く親しんできた『関係人口』の一人です。市単独での解決を模索するよりも、近隣自治体(八王子市や多摩市など)との「公共施設の相互利用・共同管理」という広域的な視点を取り入れるのはどうでしょうか。多摩地域は都心への通勤通学も便利な魅力的な地域です。地域全体での課題解決の道が、単なる人口のパイの奪い合いではない地域共創の視点を持つことで開けてくるのではないでしょうか。	広域的な視点から公共施設の相互利用や共同管理を検討してはどうかというご提案をいただきました。市の限りある資源を有効に活用することに加え、近隣自治体との広域的な連携は行政サービスの充実や効率的な行政運営を図る上で重要な視点であると認識しております。本戦略においても、市単独ではなく、広域・他主体連携について３つの戦略方針の一つの要素として第３章で掲げております。公共施設のあり方については、公共施設総合管理計画に基づき、縮充の取組を進め最適化を図ってまいります。
47	市内の、多摩テック跡地と日野自動車跡地とエプソン跡地を、「郊外の企業城下町の未来の姿の先行例」として、丁寧に柔軟に産官民いったいとなって再構築できないのだろうか。天然資源及び住民の安心安全生活と調和した最先端の IT を取り入れつつ、市内や多摩地区からの、リスキリング者の学びと雇用の場として、日野市にこの先さらに増えるだろうと思われる、高齢貧困層やロスジェネ世代が生活保護無しに文化的で生き生き長寿時代を、生まれ育った日野市で暮らせるようにすれば、産官民が３方良し！ではないでしょうか	跡地活用における産官民連携や、地域の資源を生かした再構築に関するご意見をいただきました。今後の地域の発展において持続可能なまちづくりは必須であり、本戦略では、産業・雇用分野において共創を重視し、地域特性を生かした新たな価値創出を目指す方針です。企業跡地の活用については、土地利用や周辺環境、雇用創出、地域経済への波及効果を踏まえ、関係者と連携しながら慎重に検討してまいります。

48	件名:市内における相次ぐ大規模データセンター建設計画への懸念と行政の指導責任に関する意見書日野自動車工場跡地(三井不動産計画)およびセイコーエプソン跡地において 相次いで浮上している大規模データセンター(DC)の建設計画について、市の税収確保の必要性は理解するものの、市民の安全な暮らしと「水と緑の豊かな日野市」のブランド価値を揺るがす重大なリスクがあると考え、計画の無条件の進展に反対いたします。市が持つ開発指導権限に基づき、事業者への厳格な環境アセスメント(環境影響評価)の義務付け、および以下に示すリスクへの具体的対策を強く求めます。1. 市内複数立地による累積的な地政学的・安全保障上のリスク近年の海外情勢が示す通り、大量のデータを処理する DC は紛争時に「軍事攻撃の標的」となる危険性が顕在化しています。本市においては、日野自動車跡地だけでなくセイコーエプソン跡地にも建設が予定されており、重要インフラが狭い市内に集中する形となります。いずれの計画地も住宅地に極めて近接しており、有事の際、周辺住民を巻き込む甚大な被害に繋がりかねません。市として防衛・安全確保上のリスクをどう評価しているのか、明確な説明が必要です。2. 環境・水資源への過剰な負荷複数拠点の DC が同時稼働することによる、二酸化炭素排出量の増加、排熱による周辺環境の気温上昇(ヒートアイランドの加速)を強く懸念します。さらに、サーバー冷却に伴う地下水の過剰利用は、市内の地盤沈下や、水道水の水質悪化(濁りなど)を誘発するリスクがあります。3. 周辺住環境への直接的侵害 24 時間稼働する空調設備の騒音や、巨大な構造物による日照阻害・圧迫感は、住民の平穏な生活権を脅かします。三井不動産側から建物の高さ引き下げ等の提示は一部なされているものの、根本的な環境・安全リスクの払拭には至っていません。市は民間事業者の開発を追認する	大規模データセンターの建設に関するご意見は、環境、安全保障、地域経済など多面的な論点を含むものであると認識しております。大規模データセンターに関する具体的な開発計画については、関係法令や環境配慮、周辺住民への影響、事業者との協議状況を踏まえ、個別に適切な対応を行ってまいります。

	だけでなく、市民の生命と環境を守る立場から、より厳格な姿勢で指導にあたることを強く要望します。	
49	用水路や田んぼは、昨今の豪雨災害にも対応しうるグリーンインフラのひとつです。水を吸収しないアスファルトではなく、スポンジのように一時的に水を吸い込む田んぼや用水路の多い日野市は、これからの街づくりを占う先進的な街になり得ると思います。世界的にも先んじたスポンジシティとして、日野市が実験的に色々な施策を取ってくれることを期待します。	用水路や田んぼをグリーンインフラとして生かすというご提案をいただきました。本市ならではの自然環境を将来につなぐに当たって、本戦略では、水辺空間や農地を単なる土地利用の対象としてではなく、防災、環境、教育など幅広い分野間での連動により、資源として活用する方針です。雨水貯留や浸水対策の観点も含めた自然を生かしたまちづくりについては、個別施策と連携しながら検討してまいります。
50	多死社会への対応が必須。 周辺の市と比べて、火葬場が貧弱。 処理能力が不足な上に煤煙まで出している。 葬祭場も無い。 あと数年すれば、火葬難民がでる。 近隣の市のゴミを処理する前に、火葬場を考えないとダメ！	多死社会を見据えた火葬機能という生活インフラの確保に関するご意見をいただきました。本戦略では、都市の基盤機能を持続的に維持するため、必要な施設整備や広域連携を含めて検討する方針です。本戦略は個別事業の実施を担保するものではありませんが、新たな施設の整備にあたっては、公共施設総合管理計画等踏まえ参考とさせていただきます。
51	●日野市にはたくさんの用水路があり、その周りの少しの土地だけでも農地やフットパスとして残せたらどんなに素晴らしいだろうと思います。 １ミリでも低い土地へ流れる水をコントロールして用水を張り巡らせた昔の人達はすごい！ 用水路に隣接する農地を守ることで相続する人にメリットがあるしくみはないものでしょうか？ 私は地元出身者ではありませんが、農地をつないで流れる用水は日野市の財産, 文化遺産だと感じます。 ●高幡など、昭和に建てられた図書館は、とても素晴らしい建築だと思います。味のある昭和の建物です。ぜひ、補強補修して保ってほしいです。	用水路や農地、昭和期の公共建築など、地域の歴史や景観を伝える資源を大切にしてほしいというご意見は、本市の価値を継承するうえで重要であると考えております。本戦略では、自然環境や文化資源の保全・活用を通じて、日野らしさを生かしたまちづくりを進める方針です。施設の補修や保全については、利用状況や安全性、維持管理の負担を踏まえ、個別に検討してまいります。

52	街路樹を増やして欲しいです。近年の夏が暑すぎて道路を気軽に歩けません。(街路樹があれば、路面温度が 20℃も下がる研究結果もあります。SNS でも何度も取り上げられています。最近も X で活発に議論され、注目されています。)もちろん、木を生やすコスト、管理するコストなど、お金が必要であることは重々承知です。しかしながら、街が過ごしやすくなるのであれば、個人的にはそれ相応の増税は受け入れる覚悟は出来ています。(インフレ時代に家計が更に苦しくなることはもちろん分かりますが、地球温暖化の苦しさに目を向ける事も大切だと思います。)きちんと計算をして、年間どのくらいのコストが必要で、どのくらいの増税が必要かを計算して頂きたいです。ゴミが少ない自治体として認知されてきた日野市。次は街路樹が多い街、夏を過ごしやすい街として、環境先進的な街へと更なるイメージアップを目指して頂きたいです。	街路樹の整備による暑熱対策や都市の魅力向上に関するご意見をいただきました。 本戦略では、環境に配慮したまちづくりを引き続き推進することに加え、気候変動への適応も踏まえ、都市防災機能を高めていく方針です。必要な管理コストについては、財政規律とのバランスを見極めつつ、地域ごとの特性や利用実態に応じた適正な個別管理に努めてまいります。
53	ブックポストを日野駅や市役所に置いてほしい。より図書館利用が増えると思う。	図書館利用の促進に向けたブックポスト設置のご提案をいただきました。担当課にお伝えさせていただきます。 本戦略は個別事業の実施を担保するものではありませんが、ご意見につきましては利用状況や管理体制、費用対効果を踏まえ、今後の図書館サービスの充実を検討する際の参考とさせていただきます。
54	私は祖父の時代からの住民です。集落内で、代替わりしたり、空き地が建売住宅なって入ってきた家庭と関わり方がわからない。窮屈でない程度に顔見知りになっておきたいが、きっかけがない。フランクな場や会を、どうやって作り広げていいか、私ひとりではわからないし。	地域住民の交流や顔の見える関係づくりに関するご意見をいただきました。地域における住民同士のつながりや顔の見える関係を築ける環境づくりは、安心して暮らせる地域コミュニティの形成や、防災・防犯等の観点からも重要であると認識しています。本戦略では、多様な住民が無理なく関われる地域づくりを進め、共生・共創の基盤を育む方針です。ご意見につきましては、誰もが気軽に参加・交流できる機会や場づくりの充実に向け、今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。

55	介護施設が少なすぎる事と、特養の施設老朽化、花子の入居が厳しい、アルツハイマー認知症の対象者に差別的、子供と大人の発達障害について、有資格者の教師を増やしてください。私の息子は、小学生、中学生時代同級生や、保護者からの無理解な誹謗中傷を受けてきました。教育委員会等の理解者ゼロです。何十年たっても変わらない体質をに憤りを感じます。	介護施設や発達障害への支援体制、専門性を持つ人材の確保に関するご意見をいただきました。本戦略では、誰一人取り残さない地域づくりに向け、福祉・包摂分野を重点的に位置づけ、年齢や特性に応じた支援体制の充実を図りつつ、多様な個性を尊重し交流できる場づくりを進める方針です。施設整備や人材確保については、財政状況をはじめとする経営資源も鑑みながら、関係機関と連携しながら方策を模索してまいります。
56	日野市から通勤通学する人、日野市に通ってくる人の安全のため、危険な日野駅ホームを造り直すこと、線路土手に上下線ホームを造ることは可能です。 中央線で最も危険な日野駅ホームを造り直して、子供をはじめ利用者の安全を実現して安心安全な日野の第一歩にしてください	日野駅ホームの安全性向上に関するご意見は、通勤通学の安心を支えるうえで重要であると認識しております。本戦略では、交通安全や公共交通の利便性向上を重要な課題として捉え、関係機関との連携を図る方針です。本戦略は個別事業の実施を担保するものではありませんが、駅施設の改良については、鉄道事業者や関係機関との協議に基づき調整を進めてまいります。
57	日野市に子ども３人と在住しております。日野市南平のすき家から右手にビッグ・エーを越え、その先左手のセブンイレブンあたりまで、子どもたちが利用出来る施設がありません。今現在、その通りのすき家付近、ガソリンスタンド前の住宅展示場がありますが、子育て世代皆で、あそこが工事中の時から、支援センターや児童館が出来てくれたらどれだけいいかね！！と話していました。出来たのはほとんど誰も来訪していなさそうな住宅展示場…。あの場に子どもたちが利用出来る施設を作ってはいただけないでしょうか。私たちの地区では、南平児童館プラネット、若しくは万願寺あたりまで行かないと施設はありません。幼い子たちを抱える母たちの願いです。小さい子を抱えて、車なしでは児童館に行くのはな	子どもが利用できる地域施設の整備についてのご意見をいただきました。本戦略では、子育て世帯が安心して暮らせる環境づくりにむけ、子ども・子育て支援や居場所づくりを重点的に進める方針です。新たな公共施設の配置については、公共施設総合管理計画に基づき、地域ごとの需要や移動負担、既存施設の活用状況を踏まえたサービスの質向上に加え、施設総量の縮減と合わせた「縮充」の視点から慎重に検討してまいります。

	かなか大変です。母たちの意見を代表してお伝えさせて頂きます。どうぞよろしくお願いします！	
58	おしゃれなパン屋さんとカフェが欲しい 商店街を作って欲しい	商店街や飲食店など、日常の賑わいを生む都市機能に関するご意見をいただきました。本戦略では、産業・雇用分野において、地域の回遊性や生活利便性を高める取組を進める方針です。PlanT などの創業支援拠点を活用し、市内で個店やビジネスが起こせるよう引き続き取り組むとともに、店舗誘致や商業環境の整備については、地域の特性や民間事業者の動向を踏まえ、実効性のある支援を進めてまいります。
59	日野市立病院再建について病院倒産危機から再生への経験を、お話しする機会があれば参加したいと思います。	市立病院の再建や医療体制の充実に関するご意見をいただきました。本戦略では、持続可能な経営基盤の構築に向け、市立病院をはじめとする地方公営企業の経営健全化を図ってまいります。加えて、地域医療体制の持続可能性を高めるための行政分野として「健康・医療」を設定しております。市立病院の経営再建に関する取組については、財政規律や広域的な医療需要、関係機関との調整を踏まえ、適切に検討してまいります。
60	自然とエンターテインメントの融合により、日野を訪れる人を増やせるようにする。百草のハイキングコースにポケモン置くとか。AR とか。 それにより街を活性化する。	観光や地域資源を生かした集客に関するご提案は、地域の魅力発信や交流人口の拡大に資する重要な視点であると受け止めております。本戦略では、分野間の連携・連動として、施策を個別に評価するのではなく、複合的な相乗効果を引き出す施策を展開していく方針です。ご意見をいただきました AR 等の新しい技術の活用については、費用対効果や安全性、地域への波及効果を見極めながら、施策検討の参考とさせていただきます。
61	高幡不動駅は、京王ライナー・特急停車駅であり、多摩モノレールとも接続する交通利便性の高い駅ですが、その強みを十分に活かしきれていな	高幡不動駅周辺の回遊性や景観、生活利便性に関するご意見をいただきました。本戦略では、駅周辺を含む地域拠点の機能強化を進め、歩行者

	いと感じています。特に、高幡不動尊という国宝を有する歴史的観光資源がありながら、駅から参道にかけての道幅が狭く、年末年始には大変混雑しています。歩行者と車両が混在しており、安全面や回遊性にも課題があります。また、普段営業していない店舗や空き店舗も目立ち、遠方から訪れた方に高幡不動の魅力を十分伝えられていないように感じます。さらに、交通アクセスが良い割に、ファミリー層向けのマンションや商業施設、飲食店などの生活利便施設が少なく、駅前が銀行中心で活気に欠けています。本来であれば、交通結節点として子育て世代や若い世代が住みやすいポテンシャルを持つ地域だと思います。そのため、高幡不動尊周辺も含めた駅前再開発として、・歩行者中心の安全な参道整備・景観を活かした門前町づくり・空き店舗活用や常設店舗支援・ファミリー向け住宅整備・商業施設や飲食店誘致などを進め、「通過する街」ではなく、「住みたい・訪れたい街」として魅力向上を図っていただきたいです。	の安全性や回遊性を高める方針です。空き店舗活用や商業機能の充実、住宅整備などについては、地域特性や関係権利者の意向を踏まえ、個別施策の中で検討してまいります。
62	もっとわかりやすく、具体的にビジョン、マスタープランをかかげてほし,「安心して子育てしやすい」「日野市は犬の横顔なので 犬人と共存、一緒に暮らしやすい街」など 「街が一つの大家族」	分かりやすさを重視した、具体的なまちのビジョンの見せ方についてご意見をいただきました。市のビジョンとして「地域未来ビジョン2030」を掲げており、これからも日野でよりよく暮らしていくために大切にしたい価値観や行動指針を示しています。本戦略ではビジョンの実現に向け、マスタープランではなく、限りある経営資源の中で何に注力しているのか「選択と集中」の道筋を示したうえで、各行政分野において目指すべきまち姿を示しております。いただいたご意見につきましては、今後の個別計画を含めて参考にさせていただきます。
63	子供たちがきちんと安心して学び、育ち、活動、活躍できる街を期待する。	子どもたちが安心して学び、育ち、活動し、将来にわたって活躍できる環境づくりについてのご意見をいただきました。本戦略では、教育、子育て、福祉、地域活動などの各分野が連携し、子どもたち一人ひとりの

		状況に応じた支援や居場所づくりを進めてまいります。今後も、学校だけでなく地域全体で子ども・若者を支える視点を大切にし、誰一人取り残さないまちづくりに努めてまいります。
64	財政のことを考えると、市内に企業誘致ができれば良いですが、土地がない。事業者が撤退する動きがあり、ある程度の規模間の土地を確保できるならば、市が斡旋して誘致ができないのか。日野市は、通勤にも便利な土地なので人を確保するという点では有利になるはず、と考える。用水路についてのケアをしてほしい。平時の時でも川へのつまりが原因なのか、水枷が高くなっているときがある。平時でそのようになっているので、そこに雨が降るとどうなるだろうか。と心配になるときがある。地域のボランティアも重要だが、監視するようなシステム(高さの見える化)は市が中心になり、システム化をはかってほしい。	企業誘致については、財政基盤の強化や雇用の確保の観点から重要な取組であると認識しております。一方で、本市の土地利用には制約があることから、既存の産業拠点や民間資源の有効活用を基本に、本戦略に掲げる関係機関や事業者等との連携を図りながら、実効性のある誘致のあり方を検討してまいります。また、用水路についての日常の維持管理や管理体制についてのご意見をいただきました。地域ボランティアの皆様の協力をいただきながら、必要な箇所の状況把握や見える化、警戒時の対応を含めた管理のあり方を個別施策の中で検討してまいります。
65	このような形で意見を聞いてくださってありがたいです。 行政の情報が届くように情報発信と意見募集を引き続きよろしくお願いします。 公共施設がなくなるとその地区の活力がなくなる気がします。人口が減るのでやむを得ないと思いますが、しっかりと説明して進めてほしいです。 よろしくお願いします。	情報発信と意見募集を継続してほしいというご意見につきまして、本戦略においても、引き続き施策の透明性を確保しつつ、市民の皆様の声を継続的に受け止める仕組みづくりを進める方針です。また、ご意見の公共施設に関する施策につきましては、とくに再編など地域への影響が大きい課題について、市民に対して丁寧な説明と意見交換を行いながら、関連計画に基づいて進めてまいります。
66	日野市は特に水の町です。浅川、多摩川の二本の川に挟まれていてその間には用水路がたくさんありこの水域を活かした水辺のあるまちづくりをすることで、自然、憩い、つながりのある日野市ならではまちが生まれると思っています。DX 化が進み AI の発展で人と人のつながり、会話が	本市の水辺や自然環境を生かしたまちづくりに関するご意見をいただきました。日野らしい地域価値を高めるうえで重視したい視点だけではなく、市の財源をはじめと数経営資源の配分も併せて検討すべく、MW ポートフォリオを設定いたしました。本戦略では、住宅・居住環境、農

	減り、自治会員も減り、共に共存、共生のない町になりつつある昨今、絶対残していかないとならない自然、水。そこから拡がる文化、教育、コミニティ、健康、学び　拡がりは無限です。集まれ戦略ラボのワークショップに参加して気づいたことは、市民の考える日野市の未来と日野市職員の考える未来とのギャップがあることがわかりました。それは、住んでる人から見る日野市の未来と働く人から見る日野市の未来の違いであると実感しました。そして、残念ながら方向が日野市職員の考える未来へ舵取りされて、働く人から見る日野市の未来で進められる感じがしました。ぜひ、住んでいる人から見た日野市の未来になるような総合戦力となることを心から信じて祈っています。	地をはじめとした各行政分野の連動に基づき、水と緑の資源を多面的に活用する方針です。市民の皆様の感じる「住んでいる人から見た未来」を大切にしながら、計画の運用や施策の展開に取り組んでまいります。
67	何も出来ない中途半端な街になって衰退が続く未来しか見えなかった。総花的に優先度をつけただけ、メリハリが無い。データに基づく課題が示されているのだから集中すべきカテゴリは明らかで、Will も大事だが Must を成し遂げるための How を市民 WS で吸い上げるべきだったのでは。	ご指摘いただいた総合戦略のメリハリについて、例えば取組の優先順位や選択と集中の考え方について、各分野の役割がより伝わるよう、戦略的ロードマップをはじめとする整理の仕方を工夫いたしました。 本戦略では、限られた資源を重点分野に配分しつつ、重点分野以外のものを切り捨てるものではなく、分野間の連携や共創によって地域全体を支えること、成果が上がらない施策に対してのビルド・アンド・スクラップの推進を明記し、メリハリのある市政を推進してまいります。
68	Must と Will のスコアについて、何故その点数なのか根拠がないので妥当性が不明。 WS で意見が出たのであれば総数何件だから割合から何点といった定量性が示されるべきではないか。何となく意見が多かったから 7 点などのようなある意味恣意的な採点がなされているのではないか、と思えてしまう。WS のマッピング結果も様々なパターンがったのに何故ポートフォリオ案になったのかの根拠も示されてないので適切なポートフォリオ	MW ポートフォリオやロードマップの根拠、また未来像の根拠についてのご意見をいただきました。本戦略では、データ分析や市民ワークショップをはじめとした市民意見を踏まえ MW ポートフォリオを設定し、2030 年に向けた重点施策を選定しております。いただいたご指摘を踏まえ、優先度の考え方、選択と集中の基準、今後の進め方について、本文の中で説明を加えさせていただきました。

	か判断出来ない。 結局何を選択集中して何を縮小するのか読み取れない。根拠不明な優先度はあれど結局総花的な投資をしようとしているようにみえ、改革が進む未来が見えない。all or nothing に出来ないことは理解するが、それは今までと何が違うのか。 ロードマップがない。2030 年なんてすぐそこなのに、未来のあるべき姿が見えない。	
69-1	(長文でいただいたため、No.69-1～69-4 は論点別に整理、要約させていただいております) 「日野地域未来ビジョン 2030」で示されたスケジュールと今回の総合戦略策定時期との整合性について、どのように整理されているか。また、市の戦略名称が「地域」と冠されているのは、市行政が責任をもって戦略を提案できないための枠組みとして「地域」と称しているのか。	総合戦略の策定時期は、まず根幹となる「地域未来ビジョン 2030」自体の策定時期がコロナ等の対応の経過から遅れたことと、市長選挙（R7.4）が総合戦略の策定にあたって大きな影響があることから、新市長の意向を十分に踏まえることができるよう現在の策定スケジュールとなりました。また、「地域」としているのは、ビジョンと同様、市役所（行政）だけが実現する戦略」ではなく、「日野に関わるすべての人（地域全体）で共有し、共に創り上げていく地域共通の作戦書」と位置付けているためです。
69-2	(長文でいただいたため、No.69-1～69-4 は論点別に整理、要約させていただいております) 環境基本条例に基づく環境基本計画や SDGs 未来都市計画、過去の基本構想における成果と未達成課題の検証が必要では。また、施策の成果を達成できなかった課題の分析や施策見直しの視点が欠落したまま新たな戦略が策定されている。	計画体系上、環境基本計画に対して総合戦略は上位計画にあり、その他の計画と同様、十分に既存計画の内容を踏まえながらも市政運営上の新たな視点を加えた上位計画として策定しております。なお、SDGs 未来都市計画は、本総合戦略に含める改正とする整理をしております。 戦略の策定作業においては、過去の計画の振り返り、反省も議題においた上で作成をしておりますが、昨今の社会環境の変化の激しさから、過

		去の行政活動の延長線上を検討することは適切ではないと判断し、「現在と未来」を軸に置いた検証を進めました。
69-3	(長文でいただいたため、No.69-1～69-4 は論点別に整理、要約させていただいております) 気候変動、平和、帝国主義の顕在化、格差問題、国家による国民の道具化などに対し、地方自治、市民自治の精神はこれらへの挑戦として機能してきたが、拝金主義のもと無に帰されてしまった。ビジョン＝一般市民の希望、思いと短絡的に整理するのは無責任である。	市では社会的責任を適切に果たすためには、その前提として人的財的資源が必要です。その過程においても、一時的にでも市行政の社会的責任を放棄してはなりません。そのことを前提とすればこそ、将来に渡って気候変動、平和等への社会的責任を担保するための経営上の整理、優先順位付けが求められると考えております。行政運営においては、二元代表制による民意反映を基本として、行政上の長期計画等に基づき運営されます。ビジョンは後者の長期計画等の最上位の基本構想として策定しております。したがって、行政運営上はこれを基礎とし、適宜二元代表制に基づく調整を行うこととなりますので、ご理解を頂けますと幸いです。
69-4	(長文でいただいたため、No.69-1～69-4 は論点別に整理、要約させていただいております) 「MW ポートフォリオ分析」及び「戦略的ロードマップ」について、市民の目指すべき姿を一律に「Will」と置くことの妥当性や、前提となる社会増の方針が定まっていなければ、それに向けた構造的必要性としての「Must」は定まらないのでは。	市民の目指すべき理想像は、マクロには選挙による市長の選出、ミクロには個別のアンケートや市民参画プロセスによる意見収集によって拾い上げ、集約して定めるべきものと考えております。そのため、市民ワークショップ、庁内ワークショップ、また今回のパブリックコメントなどでそれぞれの意見を集約して設定しております。 「Must」を設定するにあたっても、今回の「Will」の動向と併せて、そのための必要性を考慮して設定しております。